

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
東洋医療専門学校		平成12年3月31日		太田 宗夫		〒 532-0004 (住所) 大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人大阪滋慶学園		昭和62年3月31日		浮舟 邦彦		〒 532-0003 (住所) 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6150-1301		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	救急救命士学科		平成15(2003)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	養成目標は救急救命士の国家資格取得にとどまりません。救急救命士として必要な知識・技術・職務観を修得させるとともに、傷病者とその家族そして救急医療に携わる各人・各機関の立場を理解し、末永く活躍するとともに指導的立場にもなれる救急救命士を育成することです。そのために救急活動・救急医療の経験豊かな優れた教員による質の高い講義と実習、さらに生活指導と就職指導を行い、救急救命士になるとの夢を持って入学した学生の希望を実現させます。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格：救急救命士(国家資格) 2023年度合格率：100%(71名/71名) 3年制教育でより専門的、実践的な教育を目指し、国家試験対策のみならず、地方公務員試験対策など就職対策も万全。現場経験豊富な元消防職員からの直接指導で即戦力となる人材を養成しています。 中退率：5.5%(14名 主な理由:学力不審、経済的理由、進路変更など)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,912 単位時間	1,634 単位時間	120 単位時間	1,158 単位時間	単位時間	単位時間
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
240 人	256 人		0 人		0 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)：71 人							
	■就職希望者数(D)：61 人							
	■就職者数(E)：61 人							
	■地元就職者数(F)：16 人							
	■就職率(E/D)：100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)：26 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)：86 %							
	■進学者数：2 人							
	■その他							
	一次的な仕事に就いた者:8名 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 消防本部、警察、自衛隊、病院、民間の救急搬送会社など							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	https://www.toyoiryo.ac.jp/gakka/elt/							
企業等と連携した実習等の実施状況	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数				2,912 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				258 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				120 単位時間			
	うち必修授業時数				2,912 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				258 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				120 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				258 単位時間			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				8 人			
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				9 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				8 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
学校法人大阪滋慶学園が設置する東洋医療専門学校教育課程の編成における基本方針は、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
東洋医療専門学校教育課程編成委員会規程第2条に明記されているように教育課程編成委員会は、法人の最高意思決定機関である法人理事会の直下に置かれている。組織図参照同規定第3条及び第4条のとおり理事長が事務局委員長となりその他の構成メンバーは法人理事会により承認される。具体的には学校の各セクションの責任者と、専門分野に関する企業の役職員など広く選任されている。
教育課程編成委員会で得た企業等の意見や要望は学科内で要約されカリキュラムへの反映を事業計画発表会で共有し次年度事業計画に盛り込まれる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名 前	所 属	任期	種別
渡辺 真季	海南市消防本部 予防係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
能登路 賀一	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 救急救命士科 副室長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
森本 幸夫	社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院 EMT科 顧問	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
【学内担当者】			
森本 伸子	救急救命士学科 学科長		—
田中 一平	救急救命士学科 学科長		—
大崎 聖敏	救急救命士学科 専任教員		—
金村 諭司	救急救命士学科 専任教員		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月7日 9:00～12:00

第2回 令和6年12月1日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今年度は学生の「退学」について昨今の退学者数、退学率、時期、理由などを挙げ、本校の取り組み及び現状の課題を説明し、委員の先生方から意見をいただいた。

短期

■個々の学生に合わせた成功体験を積ませる。 ■他学年とのコラボレーション授業を実施する。

中期

■好奇心をもたせ、気付きに対して褒める。 ■モチベーションUPに卒業生の講話および実習指導をうける。

長期

■なぜ勉強が必要か根気よく説明し理解させる。(職業人としての心構えを持たせる)

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々進化する医療業界では、新しい技術や新しい知識の習得が重要である。企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識習得を目的としている。また、技術・知識だけでなく目指す業界の方々と接することにより学習意欲就業意欲向上を目指している。

実習・演習等で学んだ知識・技術が将来における臨床現場で活用され、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、実社会におけるルール等を肌で感じ職業観・勤労観を育成するとともに、自らの適性を見つめながら具体的な将来像を描き、社会人としての総合的な人間力を高めることを基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学外では実習指導要領に基づいて、企業と実習履修内容の詳細打ち合わせを事前に実施し、学内での事前オリエンテーションでは考え方・行動・姿勢を十分説明し、企業および担当者にも失礼の無いよう指導する。この実習期間中は企業担当者と担当教員で問題点の有無を相談し、問題点が発生すれば対応を行う。学内の演習においては業界が求める人材に必要な到達度について企業と事前に授業内容の打ち合わせを行った上で授業計画を立案し、それに基づいた演習の実施・及び評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報科学	就職先で必要になるコンピュータの基本操作を身につけ、簡単な文書作成、計算処理ができる情報モラルを身につけ、情報化社会でのルールを守るパソコンの基本操作およびWord、Excelの基本操作の習得	株式会社ワークアカデミー
保健・体育学Ⅰ	基礎体力を保持し、健全な身体機能の理解、増強の方法を学ぶ。	運動支援会社 STEP FORWARD
保健・体育学Ⅱ・Ⅲ	筋力、筋持久力、瞬発力、敏捷性などの能力向上を目指し、就職活動における体力試験の対策を行う。	株式会社ヘルス＆フィットネス
病院内実習	救急医療施設の役割や救急患者の病態・処置を学び、救急現場での判断・解決能力を養う。これまでの講義や実技訓練で体得した知識・手技を実際の救急現場で活用する。	大阪警察病院、奈良県立医科大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、近畿大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院など22施設
救急用自動車・同乗実習1.2	救急救命士法第34条第1号に基づき、救急救命士養成所指定規則第4条、指定基準の3による実習。座学で学んだ「基礎医学知識」及び「技術」を基に傷病者から得られた観察結果等を常に把握することで現場活動能力を養う。	湖南広域消防局、枚方寝屋川消防組合消防本部

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、資質・能力の向上を研修の基本方針としている。

教職員研修規程に基づき、担任マニュアル・教職員研修マニュアル・講師マニュアルに則り研修を実施している。具体的には、業界で求められる最新の知識・技術を習得するため業界が主催する学会への参加、大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教員研修に積極的に参加している。

滋慶学園グループ内では教育の質的向上を目指すために独自の研究機関として滋慶教育科学研究所を設置し、教育システムの構築・教育ノウハウの蓄積を行っている。また専門分野に分かれた委員会が設置されており、より教育の質向上に向けた研修が行われている。その他としては、学生指導に関わる人・カリキュラム・教材・環境に関する各委員会による研修も行っている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第8回PEMEC 尼崎コース	連携企業等:	日本臨床救急医学会
期間:	令和5年6月17日	対象:	金村諭司 山村梨菜
内容	内因性疾患の観察・処置標準プログラム		
研修名:	第26回日本臨床救急医学会	連携企業等:	日本臨床救急医学会
期間:	令和5年7月27日～29日	対象:	野村光隆 荒木駿甫
内容	【救急医療の可視化と暗黙知】というテーマ		
研修名:	全国救急救命士教育施設協議会社員総会・職員研修会	連携企業等:	全国救急救命士教育施設協議会
期間:	令和5年8月17日、18日	対象:	喜代平要一・大崎聖敏・矢野博之
内容	総会及び救急救命士教員研修として医療知識を学ぶ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	2023年度FDミクロレベル〈スタート〉研修 I	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年4月8日	対象:	櫻本企紀・山村梨菜・荒木駿甫
内容	滋慶学園グループにおける授業デザインとその技法等		
研修名:	2022年度国家試験合格100%達成学科表彰式 国家試験対策研修会	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和5年6月6日	対象:	金村・森本・野村・山村・櫻本
内容	表彰式・国家試験の合格率向上に繋がる情報やスキルを共有する		
研修名:	DX推進研修	連携企業等:	DX委員会
期間:	令和5年6月19日・7月31日・9月11日	対象:	田中 一平
内容	滋慶 DX 2. AI の過去と未来・基本的なデータ分析スキル 広報出願モデルの説明		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第27回日本臨床救急医学会	連携企業等:	日本臨床救急医学会
期間:	令和6年7月18日～20日	対象:	喜代平要一・山村梨菜
内容	医師・看護師・救急救命士の救急医療、教育について		
研修名:	JESA総会及び教員研修	連携企業等:	全国救急救命士教育施設協議会
期間:	令和6年8月22日・8月23日	対象:	森本伸子・大崎聖敏・荒木駿甫
内容	救急救命士の養成機関との情報収集、行政が考える救命士について		
研修名:	エルスタ東京シミュレーション演習見学	連携企業等:	救急振興財団
期間:	令和7年1月予定	対象:	櫻本 企紀
内容	業界で通用する知識及び技術の確認と最新情報の収集		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	マネジメント基礎研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和6年5月28日・29日	対象:	森本 伸子
内容	マネジメントの基本知識を体系的に理解する		
研修名:	FDミドルレベル研修	連携企業等:	滋慶教育科学研究所主催
期間:	令和6年7月18日	対象:	野村光隆・田中一平
内容	スタッフ育成のためのコーチング理論とその等		
研修名:	FDミクロレベル〈クラスマネジメント〉研修Ⅱ	連携企業等:	滋慶教育科学研究所主催
期間:	令和6年7月25日	対象:	金村 諭司
内容	「養成目的」を明確にし、学生が職業人になるための場をコーディネートする		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか・学校の特色は何か・学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	・運営方針は定められているか・事業計画は定められているか・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか・意思決定システムは確立されているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか・カリキュラムは体系的に編成されているか・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けがされているか
(4)学修成果	・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか・授業評価の実施・評価体制はあるか・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教員の専門性を向上させる研修を行っているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制はあるか
(5)学生支援	・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(6)教育環境	・就職に関する体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

内容	学校関係者評価委員からの意見	活用方法
学校全体	4 教育成果 4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 【高等学校・大学】国家試験合格率はすばらしい結果だと思います。広報活動にも今後活かしていただきたいです。 【歯科技工士学科】国家試験合格は通過点であり、専門性と社会人基礎力を在学中に身に付けることが学校の役割だと感じています。 【救急救命士学科】 ・国家試験合格率が全国平均より高いことはすばらしいことだと思います。 ・救命士法の改訂で病院救命士のニーズが増加しており、病院も救命士の地位確立を目指し努力しているところでは、就職先の拡大に向けた教育(消防、病院など)も必要だと思います。 【鍼灸師学科】学生に対するサポート力はすばらしいと思います。 【柔道整復師学科】社会人直前講座など、在学中に参加者が少ないと感じていました。もっと学生が積極的に参加する必要があると思います。	4 教育成果 4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 国家資格養成校であるため、国家試験の合格が専門職就職に直結する。具体的な取り組みについては、キャリアセンターと教務が連携し、就職情報を求人サイトで連絡、面談を通じ、個々の要望に応じた求人の紹介、履歴書添削、面接指導、就職説明会を開催し、幅広い選択肢から自分に合った場所を見つけれられるようサポートしている。 歯科技工士学科、鍼灸師学科、柔道整復師学科については、質の良い就職先の確保が課題となる。また、毎年本校の卒業生を採用したいと思われる状況をつくっていきたい。救急救命士学科については継続して地方公務員採用試験に合格しうる教育体制を創っていくと同時に病院を含めた民間就職の拡充も目指していく。
救急救命士学科教育	■教育活動 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 院内救命士に対する特別なカリキュラムや講義は現状では特段必要ないと思います。 公務員試験の倍率は低下傾向にあります。 特定行為の訓練は必須だと思いますが日常業務に必要な機器の操作等ができない人材が多く基礎を確実に身に付けられるような実習が必要だと思います。	■教育活動 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか ①公務員対策のさらなる充実を図る。 ②即戦力としての要素を備える教育を行う。 ③業界の求める人材をリサーチしカリキュラムを再構築する。 ④専門職採用試験を受験できるように3年生前期までに国家試験合格レベルに到達できる教育を担保する。

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日

名 前	所 属	任期	種別
船木 昭治	船木デンタルラボ 代表 / 岡山県歯科技工士会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者
渡辺 真季	海南市消防本部 予防係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
能登路 賀一	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 救急救命士科 副室長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
松本 佳之	よしゆき鍼灸院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
高野 公輔	整骨・鍼灸治療院ワカメ 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
與那嶺 天音	有限会社 おおえのきトータルヘルスケア	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
小早川 真一	元大阪府立寝屋川高等学校定時制 准校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校
大池 信也	株式会社DL-GROUP(本部) 代表取締役会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
小塩 寛至	ナノ デンタル システム 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
森本 幸夫	社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院 EMT科 顧問	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
富永 礼子	一般社団法人鍼灸保険協会大阪 代表理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
丸茂 美保子	鍼灸maman 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
布施 正朝	公益社団法人大阪府柔道整復師会 理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
正木 大吾	正木鍼灸整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyuhou/>

公表時期: 令和6年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、沿革、学校の特色(教育活動、カリキュラム) 教育目標、教育指導方針
(2)各学科等の教育	定員数、入学者数、在校生数、カリキュラム(科目編成、授業時間数)、進級・卒業の要件(成績評価基準、卒業の認定基準)、目指す資格・検定等、資格取得等の実績、卒業者数、卒業後の進路(進学者数、主な就職先、就職者数)
(3)教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織・活動(教職員の研修・研究活動)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、部活動・放課後活動・生徒会活動等の状況、家庭・地域・企業等との連携による取り組み、他の学校との連携による取り組み等の状況
(6)学生の生活支援	学生の生活指導への取組状況(指導上の諸問題(中途退学、不登校など)の状況及びそれに対する学校の対処や指導の状況、心のケアの体制整備等に関する状況、留学生支援や障がい者支援も含め学校が取り組む様々な学生支援)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(金額や納入時期等)、活用できる経済的就学支援措置の内容(授業料減免措置、奨学金等の案内)
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	外国の学校等との交流状況(教員・学生間交流や単位互換等に関する実績)
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: <https://www.tovoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(医療専門課程 救急救命士学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			数学・物理学 Mathematics・ Physics	公務員・社会人として求められる基礎学力の養成。	1 前	45	3	○			○			○	
○			生物学 Biology	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			文章読解(国 語・英語) Reading Comprehension	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1 後	15	1	○			○			○	
○			情報科学 Information Processing	コンピュータ処理の実例を通して基礎を理解する。	2 通	30	2		○		○			○	○
○			教育学 Pedagogy	教育の原理を基礎知識として人間形成における教育の機能を理解する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			心理学 Psychology	発達心理・人格形成・人間の行動等を学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○	
○			法と倫理 Law & Ethics	倫理学：市民社会の成立・生命の尊厳・社会規範・宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○	
○				法学：現代法を中心に、基本権の構造および市民生活にかかわる法律的諸問題を学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○	
○			地理・歴史 Geography & History	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1 通	30	2	○			○			○	
○			政治・経済 Politics & Economics	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1 後	15	1	○			○			○	
○			英語(医療英 語) Medical English	医療英語を中心に救急現場での可能性を考えた英語力が習得できる。	1 前	15	1	○			○			○	
○			英会話 English Conversation	コミュニケーション言語としての英会話の楽しさを学びとる。	1 後	15	1	○			○			○	

○		保健・体育学 I Health & Physical Education I		1 通	30	2		○		○	△		○	○
○		保健・体育学 II Health & Physical Education II	基礎体力を保持し、健全な身体機能の理解、増強の方法を学ぶ。 就職に関する体力試験に向けて、自己の健康管理方法を学ぶ。	2 通	30	2		○		○	△		○	○
○		保健・体育学 III Health & Physical Education III		3 通	30	2		○		○	△		○	○
○		総合基礎 I General Basics I	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。基礎学力の確認。	1 通	15	1	○			○			○	
○		総合基礎 II General Basics II	公務員・社会人として求められる一般知識・知能を養成する。	2 通	90	6	○			○			○	
○		総合基礎 III General Basics III	公務員・社会人として求められる一般知識・知能を養成する。模擬試験・解説授業を通して総合的な判断力を養う。	3 通	##	17	○			○			○	
○		解剖学・生理学 Anatomy・Physiology	人体の構造と機能を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1 前	60	4	○			○			○	
○		生化学 Biochemistry	生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化等について基礎的事項を学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○	
○		病理学・法医学 Pathology・ Forensic Medicine	病理学: 疾病の要因・回復の過程など病理学の基礎的内容を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○			法医学: 法律上の死の定義。問題となる医学的事項、損傷の成り立ちなどを中心に学ぶ。	1 後			○			○			○	
○		微生物学 Microbiology	微生物の概要・感染・免疫・消毒と滅菌操作を中心に学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		薬理学 Pharmacology	薬剤の作用機序・適応・使用量や患者におよぼす影響を中心に学ぶ。	1 後	30	2	○			○			○	
○		公衆衛生学 Public Health	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生分野を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		社会保障・社会福祉 Social Security ・Social Welfare	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○		専門基礎分野 総括 Brushing up of the	専門基礎分野について、復習と仕上げをする。	1 通	30	2	○			○		○		

○			救急医療Ⅰ (概論・Ⅰ・Ⅱ・ 医用電子工学) Emergency Medical Philosophy Emergency Medical TreatmentⅠ Emergency Medical TreatmentⅡ Medical Electronic Engineering	概論:救急医学の本質・医学の発達・生命倫理と医の倫理 (インフォームドコンセントを含む)などの基本的な考え方を理解する。	1 前	45	3	○			○			○	
○				救急医療Ⅰ:救急医療の意義や、救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを学ぶ。	1 後			○			○			○	
○				救急医療Ⅱ:救急時における患者搬送の体制、方法等救急活動の基本的事項を中心に学ぶ。	1 前			○			○		○		
○				医用電子工学:救急分野で使用されるME機器の基本原 理・基本操作・安全性等についての知識を学ぶ。	1 後			○			○			○	
○			救急医療Ⅱ (接遇と安全管理) Reception & Service	救急医療における安全管理と接遇要領について学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○	
○			観察・判断 Observation・ Decision	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を学ぶ。	1 後	20	1	○			○			○	
○			処置 Treatment	救急救命処置ならびに在宅療養者に対する処置について、その概念、目的、適応、手技、評価、合併症、留意点などを学ぶ。	1 後	40	2	○			○			○	
○			検査学 Clinical Examination	救急医療における検査の目的、種類、評価方法を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			放射線医学 Radiology	臨床で用いられる電磁放射線の基礎的事項と生物環境への影響、放射線防護などについて学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			救急医学概論 総括 Brushing up of General Emergency Medicine	救急医学概論について、復習と仕上げをする。	1 後 2 後	30	2	○			○		○		
○			心肺停止 Cardio-Pulmonary Arrest	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
○			ショック・循環不全 Shock・ Circulatory Failure	ショック・循環不全の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	15	1	○			○			○	
○			意識障害 Conscious Disturbance	意識障害の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	15	1	○			○			○	
○			救急症候学 Emergency Symptomatology	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとの観察・評価・処置について学ぶ。	2 前	45	3	○			○			○	
○			救急症候・ 病態生理学総括 Brushing up of Emergency Symptomatology & Pathophysiology	救急症候・病態生理学について、復習と仕上げをする。	2 前	30	2	○			○		○		

○		疾病救急医学 I (神経系・感覚器口腔系) Neural Diseases・Sensory & Oral Diseases	神経系疾患:神経の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2前	30	2	○				○			○	
○			感覚器系疾患:感覚器(眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科)分野の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後			○				○			○	
○		疾病救急医学 II (呼吸器系・循環器系) Respiratory Diseases・Circulatory Diseases	呼吸器系疾患:呼吸器の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2前	32	2	○				○			○	
○			循環器系疾患:心臓・血管の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後			○				○			○	
○		疾病救急医学 III (消化器系・泌尿生殖器系) Digestive Diseases・Uro-Genital Diseases	消化器系疾患:消化器の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2前	25	1	○				○			○	
○			泌尿器系疾患:泌尿生殖器の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後			○				○			○	
○		疾病救急医学 IV (内分泌代謝栄養系・血液免疫系) Humoral, Metabolic & Nutritious Diseases・Blood & Immune Diseases	内分泌代謝栄養系疾患:内分泌器官・代謝器官の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2前	32	2	○				○			○	
○			血液免疫系疾患:血液・体液の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後			○				○			○	
○		疾病救急医学 V (筋骨格系・皮膚系) Musculo-Skeletal Diseases・Skin Diseases	筋骨格系疾患:筋・骨格系の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後	15	1	○				○			○	
○			皮膚疾患:皮膚の構造と機能、皮膚疾患症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2後			○				○			○	
○		産婦人科救急 Obstetric & Gynecologic Emergencies	産婦人科疾患・周産期疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に学ぶ。	2後	16	1	○				○			○	
○		精神科救急 Psychiatric Emergencies	精神障害の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に学ぶ。	2前	16	1	○				○			○	
○		小児救急疾患 Pediatric Emergencies	小児・新生児疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に学ぶ。	3前	32	2	○				○			○	
○		高齢者救急疾患 Geriatric Emergencies	高齢者疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に学ぶ。	3前	16	1	○				○		○		
○		疾病救急医学 総括 Brushing up of Emergency Medicine of Diseases	疾病救急医学について、復習と仕上げをする。	2通	30	2	○				○		○		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 所定の単位を全て修得すること。	1 学年の学期区分	前後 期
履修方法： 学年を通して所定の授業時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上の合格点を取得すること	1 学期の授業期間	24 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。